

製品名: AR- β 2 (リン酸化 Ser346) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04264**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	40kDa

抗原情報

遺伝子名	ADRB2
別名	ADRB2; ADRB2R; B2AR; Beta-2 adrenergic receptor; Beta-2 adrenoreceptor; Beta-2 adrenoceptor
遺伝子 ID	154.0
SwissProt ID	P07550
免疫原	抗血清は、ヒトアドレナリン受容体 β 2 の Ser346 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 321-370

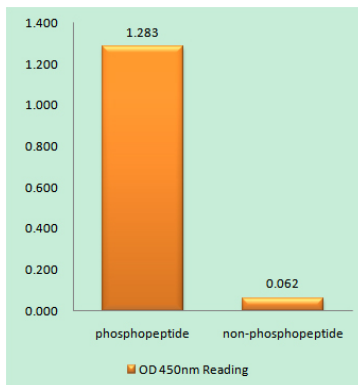
背景

この遺伝子は、Gタンパク質共役受容体スーパーファミリーに属するβ2アドレナリン受容体をコードしています。この受容体は、その最終エフェクターの一つであるクラスC L型カルシウムチャンネルCa(V)1.2と直接結合しています。この受容体-チャンネル複合体は、Gタンパク質、アデニル酸シクラーゼ、cAMP依存性キナーゼ、およびカウンターバランスホスファターゼPP2Aも含まれます。シグナル伝達複合体の集合により、このGタンパク質共役受容体による特異的かつ迅速なシグナル伝達が確保されます。この遺伝子はイントロンを含みません。この遺伝子の様々な多型、点変異、および/またはダウンレギュレーションは、夜間喘息、肥満、および2型糖尿病と関連しています。[RefSeq提供、2008年7月]、疾患：ADRB2の多型性は、ある種の夜間喘息を引き起こす可能性がある。機能：βアドレナリン受容体は、Gタンパク質の作用を介して、カテコールアミン誘導性のアデニル酸シクラーゼ活性化を媒介する。β2アドレナリン受容体は、ノルエピネフリンよりも約30倍高い親和性でエピネフリンに結合する。PTM：パルミトイル化。Cys-341を細胞膜に固定することにより、Ser-345とSer-346のアクセス性を低下させる可能性がある。アゴニスト刺激は脱パルミトイル化を促進し、さらにSer-345とSer-346のリン酸化を可能にする。PTM：アゴニスト刺激によりPKAとBARKによってリン酸化され、受容体の相同脱感作を媒介する。PKAを介したリン酸化は、BARKによるリン酸化を促進すると思われる。DNA損傷時にリン酸化される（おそらくATMまたはATRによる）。PTM：Tyr-141のリン酸化はインスリンによって誘導され、受容体の過感作を引き起こす。類似性：Gタンパク質共役受容体1ファミリーに属する。サブユニット：SLC9A3R1およびGPRASP1に結合します。

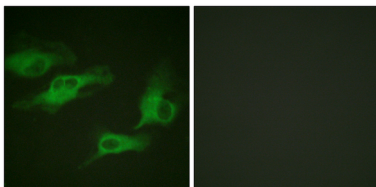
研究分野

カルシウム;神経活性リガンド-受容体相互作用;エンドサイトーシス;

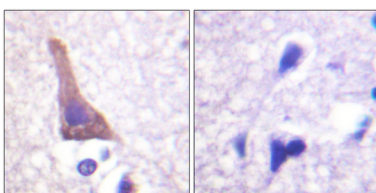
画像データ



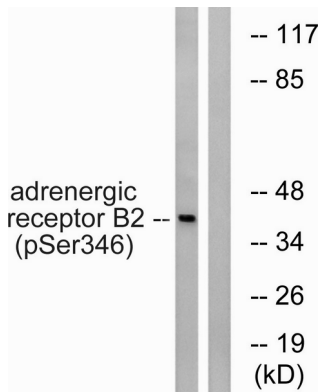
アドレナリン受容体β2（リン酸化Ser346）抗体を用いたリン酸化ペプチド（リン酸化左）および非リン酸化ペプチド（リン酸化右）免疫原の酵素結合免疫吸着測定法（リン酸化ELISA）



アドレナリン受容体β2（リン酸化Ser346）抗体を用いたHeLa細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



アドレナリン受容体β2（リン酸化Ser346）抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



ノコダゾール 1µg/ml で 16 時間処理した HepG2 細胞のライセートを、アドレナリン受容体 β2 (リン酸化 Ser346) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。